17　鍼治療効果の研究
ー白血球及びリンパ球亜群への量的影響ー

○宛文涵[4)]、李愛麗[4)]、松井健一郎[1)]、坂井潤太[1)]、荒井松男[2)]、高田外司[2)]、山口宣夫[1)]、鈴木信孝[3)]、多留淳文[2)]　金沢医大・血清学[1)]、多留内科クリニック・鍼灸若草塾[2)]、金沢大学・医・産婦人科[3)]
石川天然薬効物質研究センター[4)]

〔目的〕　欧米では鍼灸治療の関心が高まりつつあり代替医療としての評価が定着し始めている。しかし東洋においては正統な医学であるとも主張されている。一方、我々は短時間内における免疫担当細胞の調節的変動について研究してきた。今回、鍼刺激の影響を西洋医学的な要素で示すため、白血球とその亜群の量的・質的な影響を以って評価を試みたので報告する。

〔方法〕　対象は鍼治療を施行した正常成人（21才～56才）25名であり、1日後、2日後、7日後14日、21日そして28日後に末梢血を採取した。測定項目として白血球総数、顆粒球、リンパ球そして、単球の量的変化を測定した。又、鍼治療は両側の肝兪・脾兪・腎兪（背部兪穴の取穴は古典の第1椎を第7頚椎棘突起とした)及び足三里にディスポーザブル鍼30mm 16号、50mm 23号を使用し捻鍼法で実施した。

〔結果〕　鍼治療後の白血球数の変動を追跡した結果、増加が減少と個体差があり、平均すると有意差は認められなかった。しかし、治療開始前における白血球亜群の分布率により被検者を顆粒球優位型とリンパ球優位型別に分けて変動をみると、リンパ球優位型はリンパ球が減少的な調節を又、顆粒球は増加的な変動を示した。リンパ球亜群への作用としてCD2、CD4、CD8陽性細胞の変動が最も顕著であった。また、CD56陽性細胞も同様の変動を示した。

〔考察及び結語〕　正常成人への鍼治療効果を判定するため、白血球総数、その亜群である顆粒球、リンパ球そして単球の亜群別変動を調査した。リンパ球亜群の中では、CD2、CD4、CD8陽性のT細胞系の増加的変動が顕著であった。その中でも未熟型細胞であるCD2陽性細胞が最も大きな変化を示した。また、NK細胞にも増加的影響が示された。